

事例番号:310232

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦(古典的帝王切開)

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 31 週 1 日

2 時頃 腹痛出現

3:07 急性の下腹痛のため当該分娩機関へ救急搬送

3:10 超音波断層法にて、胎児の徐脈あり

#### 4) 分娩経過

妊娠 31 週 1 日

3:15 超音波断層法にて、胎児心拍数 120 拍/分まで上昇を確認

3:20 超音波断層法にて、胎児の徐脈あり

3:36 胎児機能不全、切迫子宮破裂疑いにて帝王切開により児娩出

同時に胎盤娩出、腹腔内に血液貯留あり、前回切開創の部位に卵膜が見える状態を認めた

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査にて胎盤後血腫像あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:31 週 1 日

(2) 出生時体重:1692g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:不明

(4) アpgar スコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点

(5) 新生児蘇生：人工呼吸（バッグ・マスク）、胸骨圧迫、気管挿管、アドレナリン注射液の投与

(6) 診断等：

出生当日 早産児、低出生体重児、呼吸不全

(7) 頭部画像所見：

生後 23 日 頭部 CT で大脳基底核・視床に信号異常を認め低酸素性虚血性脳症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分：病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 2 名、小児科医 1 名、研修医 1 名

看護スタッフ：看護師 2 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、子宮破裂による胎児低酸素・酸血症によって、低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考ええる。

(2) 子宮破裂の原因には、既往帝王切開（古典的帝王切開）の子宮筋層縫合部の脆弱化および常位胎盤早期剥離による子宮内圧の上昇の両方が関与した可能性があると考ええる。

(3) 常位胎盤早期剥離の関連因子は認められない。

(4) 子宮破裂および常位胎盤早期剥離の発症時期を特定することは困難であるが、妊娠 31 週 1 日の 2 時頃の可能性がある。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 入院時の対応（全身状態の確認、超音波断層法による子宮壁、および胎児心拍の確認）は一般的である。

(2) 胎児徐脈が認められ、胎児機能不全および切迫子宮破裂疑いのため緊急帝

帝王切開を決定したことは一般的である。

(3) 帝王切開決定から 21 分後に児を娩出したことは適確である。

(4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、気管挿管、アドレナリン注射液の投与)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

妊産婦が外来受診するまでの詳細について診療録に記載することが望まれる。

【解説】本事例は妊娠 31 週 1 日に、妊産婦に受診の契機となる症状が出現した時刻や電話連絡、対応の有無について診療録に記載がなく不明であった。子宮破裂や常位胎盤早期剥離のように短時間に急激な経過をたどる妊娠・分娩期の異常が疑われる場合には、症状の出現時刻や対応の詳細について診療録に記載することが必要である。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

ア. わが国における子宮破裂の発生頻度や発生状況について全国的な調査を行い、子宮破裂の関連因子および発症予防法について検討することが望まれる。

イ. 子宮破裂は古典的帝王切開などの子宮手術後に起こることがある。そのような事例の発症の予測や周産期管理についての研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。